

永頼会設立 60 周年記念座談会

2024 年 10 月 4 日（金）永頼会設立 60 周年記念座談会第 3 弾が行われました。山本祐司理事長をはじめ、当院の元職員の方が集まり、病院の発展のために尽力された宮田信瀝前理事長・名誉院長の想い出等を語りながら、財団法人に至るまでの経緯、病院が拡張されてきた歴史を振り返りました。

参加者：（1 列目左より）鷺峰元事務長、山本理事長、柚木院長、浅野事務長、井上薬剤部顧問（2 列目左より）日野元師長、井上社会活動室長、松本元師長、池田元師長、松本元医事課長、風本元副看護部長、三井元師長、高須賀元図書室司書、川本元看護部長、三笠看護顧問、青木元師長、（3 列目左より）栗田元医事課長、藤家元検査技師、味口元放射線技師長、畑野元検査技師長、神野次長、菊池リハビリ室顧問、藤原放射線室顧問



～宮田信瀝前理事長・名誉院長について～

（山本理事長）

松山市民病院は 1956(S31) 年 6 月に「市民による市民のための」病院として生活協同組合からスタートしました。日本が新幹線開業と東京オリンピックに沸いた 1964(S39) 年 11 月、松山市民病院の設立母体が財団法人「永頼会」に移行し、昨年 2024(R6) 年に永頼会は誕生 60 周年の還暦を迎えました。

10 年前の創立 50 周年の 2014(H26) 年 12 月 1 日に宮田先生が亡くなりました（享年 87 歳）。宮田先生は 1961(S36) 年の新病院完成（許可病床 135 床）第一次増築の際に外科医長として松山市民病院に赴任され、地域の保険医療活動や地域住民の福祉向上、今日の松山医療圏の救急医療システムの構築や運用にも貢献されました。1967(S42) 年 9 月より財団法人永頼会松山中央乳児保育園の理事や理事長を務められ、社会福祉活動や団体活動でも多くの要職に就き手腕を発揮されました。その後副院長を経て 1978(S53) 年 6 月に院長に就任し、1980(S55) 年 6 月以降は財団法人永頼会理事長職を兼任されました。1974(S49) 年完成の S 棟（503 床）、1978(S53) 年完成の永頼会館、1994(H6) 年完成の N 棟（538 床）、その後も多くの診療科が新設されるなど卓越した指導力を持ち病院拡大と発展のために尽力されました。応接室に入ると、陣内傳之助教授が書かれた、「鬼手佛心」の額を背に、職員を叱咤激励する姿が今でも脳裏に浮かびます。

（OB①）

カルテを含めレセプトが 100%手書きの時代に、「なんとかしたい」と宮田院長（当時）に相談しましたが、最初は費用のことで反対されました。しかし、討議を重ねるうちに、「経営の事は心配せんでええから」と言っていたら、そのおかげで当時は画期的であったコンピューター導入を中心になって手がけることができました。その後もバージョ

ンアップを繰り返しながら取り組んだ事は、私の誇りであり、感謝です。

（OB②）

宮田先生が「アメリカに行って CT をみてる」と、言われた後、当院に県内で 2 台目の CT が導入され、続いて衝撃波破碎装置が導入されました。当時、とても画期的な事に関わらせてもらったことは、松山市民病院の放射線技師としての自慢と誇りです。

（OG）

1964(S39) 年の救急病院の指定を受けた頃から、宮田先生は昼夜を惜しまず多くの手術をこなして患者さんを救っておられました。腹部外科だけにとどまらず、様々な手術をされており、遠くから宮田先生に診てもらいたいと、沢山の患者さんが頼って来られていました。宮田先生は外科医としてとても冷静で厳しく強い信念で仕事をされておられました。その一方で、患者さんや職員によく声をかけられ満面の笑顔で「ほうね」と、温かく談笑されていたのが印象的です。相談があれば、優しく親身になってとても頼れる方でした。懐かしい思い出です。

（柚木院長）

宮田先生の座右の名は「誠実」、毎日 3 時に起きて読書や勉強をしているとよく話されていました。また、困難な



手術も手際よくこなされていた姿が今も脳裏に焼き付いています。多くの職員が、誠実に生き日々努力する事の大切さを宮田先生から学んだと思います。

宮田前理事長や山本理事長のエネルギーを忘れず、時代が変わっても病院の信念を肝に銘じてこれからも精進していきたいと思います。

茶話会にご参加いただいた皆さん、ありがとうございます。2026 年に松山市民病院は 70 周年を迎えます。これからも地域に根付いた病院として、頑張ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

（文責：医療社会活動室 井上より子・総務課 松井美里）

